

樺山文江さんのナレーションと一緒に行うことに慣れるまでに、時間が必要であったのかも知れない。後半のスケルツオの2番と別れの曲はとても自然であった。ウマク弾こう、聴かせようという意志を感じない。自分の呼吸で歌い、しかも切れ味がよく、曲に没頭して楽しんでいる。

迫力ムンムンの熱演でないし、技術のバリバリでもない。しかし、説得力があり、違和感もなく納得できた。それでよいのではないかと思う。

---

(オール ショパン)

前奏曲第15番 変ニ長調 Op.28-5 「雨だれ」

夜想曲第1番 変ロ短調 Op.9-1

バラード第1番 ト短調 Op.23

バラード第2番 へ長調 Op.38

ワルツ第6番 変ニ長調 Op.64-1 「子犬のワルツ」

練習曲第9番 へ短調 Op.10-9

練習曲第10番 変イ長調 Op.10-10

スケルツオ第1番 ロ短調 Op.20

スケルツオ第2番 変ロ短調 Op.31

練習曲第3番 ホ長調 Op.10-3 「別れの曲」

---